

注目研究:工学研究科荻野千秋先生に「パーム産業との連携によるゼロエミッション・バイオリファイナリー」についてインタビューしました。

「パーム産業との連携によるゼロエミッション・バイオリファイナリー」

工学研究科応用化学専攻 教授 荻野 千秋

パーム油の廃棄物は数%しか利用していない。そのほかの廃棄物の多くは川や農園に廃棄され、環境破壊を招いている。廃棄物中の油脂から酵素触媒を使ってバイオ燃料生産が可能。さらには生分解性プラスチックなど有用物質(オーシャンクリーン高性能材料)への変換も可能。パームゼロエミッション戦略によって地球規模での環境問題改善に貢献でき、強力なSDGs行動が期待できる。

(インタビュー日:2020年6月1日、6月23日)



1. 研究のポイント

パーム産業におけるゼロエミッション戦略。廃棄物の燃料化、オーシャンクリーン材料製造によって、環境改善とガソリン代替え燃料に展開する。

2. 研究の目標

本来なら廃棄されるようなものを利用してバイオ燃料の製造。さらには生分解性プラスチックなど有用物質(オーシャンクリーン高性能材料)への変換も可能。

3. 優位性・アピールすること

油脂から酵素触媒を使ってバイオ燃料生産。従来の化学触媒法では不可能。

4. 研究の実績

<http://www2.kobe-u.ac.jp/~akondo/index.html>

5. コンタクト

荻野千秋(神戸大学工学研究科応用化学専攻)

ochiaki[at]port.kobe-u.ac.jp

[at]を@に置き換えてください。